

佐賀県種苗放流推進事業モニタリング調査

古川 泰久・東 一輝

公益社団法人佐賀県玄海栽培漁業協会（以下、協会と略す）が実施するカサゴ、ヒラメ、クエ種苗の中間育成および放流について、技術指導並びに放流種苗のモニタリング調査を行った。マダイ種苗については資源量が安定しているため、平成30年度より放流休止となり、モニタリングのみ継続している。

方 法

1. 種苗・中間育成および放流

表1に搬入した種苗の概要を示す。カサゴについては、基本的に種苗生産～放流までの全工程を当センターで行った。

また、ヒラメは中間育成後に放流、クエについては購入した種苗を直接放流した。

稚仔魚の育成、中間育成について、ヒラメは呼子町小川島の陸上水槽（20 t FRP水槽・12水槽）で行われた。放流の概要は、表2に示した。ヒラメは中間育成開始42～43日後に、放流を行った。上、中、下地区に分けて行い、それぞれ地区ごとに、カサゴを30,000尾、ヒラメを34,000尾、クエを3,000尾ずつ配布した。

2. 放流種苗のモニタリング調査

玄海漁協魚市場（以下、魚市場とする）に水揚げされたヒラメ、マダイについて、ヒラメは無眼側の尾柄部および尾鰭部も含めた体色異常、マダイについては鼻孔隔皮欠損をもとに、放流魚の混入率を調べた。

結 果

中間育成の生残率は、ヒラメ95%で、放流尾数は、カサゴが90千尾、ヒラメが102千尾であった（表2）。

放流種苗のモニタリング調査結果について、ヒラメを表3に、マダイを表4にそれぞれ示した。

平成18～R3年度における放流魚の推定混入率は、ヒラメが2.1～25.4%、マダイが0～3.3%であり、R3年度は、ヒラメ2.1%、マダイ0.03%であった。

表1 搬入した種苗の概要

種類	生産機関	搬入日	平均全長 (mm)	尾数 (千尾)	備考
ヒラメ	くまもと里海づくり協会	R3.4.13	30	110	中間育成後、放流

表2 放流した種苗の概要

種類	放流日	平均全長 (mm)	放流数 (千尾)	中間育成時の生残率 (%)	体色異常または鼻孔隔皮欠損の割合(%)
カサゴ	R3.6.11～6.25	65	90	—	—
ヒラメ	R3.5.25～5.26	80	102	93	95

表3 年度別放流尾数および推定混入率（ヒラメ）

	放流尾数 (千尾)	魚市場 調査尾数	体色異常 確認数	推定混入率* (%)
H17	159	885	97	15.2
H18	150	855	110	17.0
H19	156	432	47	15.1
H20	141	737	73	13.8
H21	110	565	21	4.3
H22	102	523	20	4.6
H23	104	1,022	28	3.4
H24	102	436	29	9.8
H25	102	483	33	8.8
H26	96	225	33	25.4
H27	92	211	17	15.7
H28	90	294	14	12.3
H29	105	322	16	7.8
H30	110	277	24	8.7
R1	102	122	10	8.2
R2	102	165	21	18.2
R3	102	208	3	2.1

*年度別の尾柄部と尾鰭の色素異常割合を考慮して算定した値

表4 年度別放流尾数および推定混入率（マダイ）

	放流尾数 (千尾)	魚市場 調査尾数	鼻孔連結 確認数	推定混入率* (%)
H17	210	1,194	26	3.3
H18	200	1,377	22	2.7
H19	200	2,367	24	2.1
H20	52	1,865	18	1.7
H21	66	1,754	8	0.8
H22	66	2,531	2	0.3
H23	66	3,983	4	0.2
H24	66	2,931	2	0.2
H25	66	4,181	6	0.5
H26	66	2,143	9	1.2
H27	66	2,608	5	0.6
H28	66	2,168	0	0
H29	129	1,972	5	0.8
H30	—	1,753	1	0.1
R1	—	4,993	3	0.1
R2	—	1,904	2	0.1
R3	—	7,195	1	0.03

*年度別の放流時鼻孔隔皮欠損割合を考慮して算定した値